



千鳥幼稚園のキリスト教保育とは？

須磨教会 教会理念『幼さな子らと共に』

《千鳥幼稚園理念》

神さまに守られて共に育つ(インクルーシブ保育)

神さまに愛されて『光あれ』

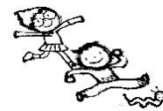
千鳥幼稚園に通う子どもたち、一人ひとりのあるがままの姿を受けとめそれぞれの個性を尊重し大切にしています。様々な『遊び』の経験を基に学んでいきます。(知る・考える・力を合わせる)

子どもたちを取り巻く全ての人々(園児のご家族・幼稚園の職員室・須磨教会に関わる方・こひつじ文庫の方・地域の方)から、共に愛され、守られている。

『神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人のうちにとどまってください。』(ヨハネの手紙 I 4章 16節)の聖句から、

『神さまに愛されて、見守られ、友だちと共に育つ』自分を信じて自己肯定感につながる保育を実践しています。

異年齢交流・みんながってみんないい(金子みすゞ)



自由遊びや園庭・散歩に出かけた時には、クラスを超えて異年齢で交流する時間を持ち、一日を通してちゅうりっぷ組・たんぼぼ組・すみれ組の少人数グループに分かれて異年齢グループで過ごす日もあります。

好きな遊びを好きな場所で楽しみ、異年齢・クラスの垣根を越えて、幼稚園の教諭全員が一人ひとりのことを情報共有することで、担任以外の教諭に見守られて寄り添ってもらうことで、周囲の大人への信頼感が育まれていきます。

年上の友だちのしていることをお手本にして、集団ゲームを楽しんで、新たな遊びを伝え合う・遊びに協力しあう・苦手なことは、得意な友だちから助けてもらう姿が見られます。

そのような関わりの積み重ねから、互いの良いところや性格を認め合い『みんながってみんないい』関係を築いていきます。これが理念の【インクルーシブ保育】です。



幼稚園でのキリスト教行事のあり方 クリスマス『いのちの誕生』『世界の平和』

クリスマスは、待ち望んでいたイエスさまの誕生を世界中のみんなと一緒に祝いする日です。

自らのいのちも『お父さん・お母さん』を通してこの世に存在する。そして、兄弟姉妹・祖父母と家族が居る。命が繋がって、生かされていることに気づいて『おめでとう』『ありがとう』の気持ちが育まれて欲しいと願っています。

年長児すみれ組が、『ページェント(聖劇)』クリスマスの夜に起こったイエスの誕生を劇で幼稚園のお友だちに伝えます。年長児だからこそ、愛されて育まれるいのちの尊さに気づき、友だちと共に考えて行動する・悲しみ喜びを共有する。家族と同じように大切な存在の友だちと心を合わせて互いを理解し、思いあう。外国の2,000年以前の話としてではなく、今自分たちが過ごしている身近なことに置き換えながら演じることで、心が育まれていきます。『いのちを大切に』それは、【この世の中が平和であることを願い育つ子どもたちであって欲しい】との願いです。



イースター 復活祭

イースターは、イエスさまが十字架につけられて、石の墓に葬られた 3 日目によみがえられた日です。イエスさまの復活を喜び、イースターエッグを探す『エッグハント』をします。『いのちの大切さ』と新たな植物や生物の芽吹き。日本では、新たな年度の始まる時期なので、成長を身近に感じられる行事です。

ペンテコステ(聖霊降臨節)

光・炎・水・風・自然の力や恵み



千鳥幼稚園では、園庭のプランターや、オリーブ館前の畑で植栽をしています。子どもたちで育てやすい苗や種を育てています。収穫ができるまでに太陽の光・雨の量・風の影響が成長を左右します。日照りが続くと枯れてしまい、梅雨が長引くと根腐れする。台風が来ると枝が折れて苗が倒れます。乾燥した日が続くと火事が起きやすくなります。自然の力には、抗うことはできないけれど、まめに水をあげたり、雑草を抜いたり・土を耕して、支柱で苗を支えたりすることで守る努力はできます。

自然は驚異的な面だけでなく、私たちに恵みも与えてくれます。

この目に見えないものが、『聖霊の力と恵み』です。

こどもの日・花の日礼拝



こどもの日花の日礼拝は、花を持ち寄り近隣のお世話になっている方に花を届けにいきます。

18 世紀から 19 世紀にかけて、アメリカやヨーロッパでは、10 歳前後の子どもたちが家計を支える働き手として、1 日 12 時間以上の労働を強いられていました。1860 年代後半になって、子どもは労働者ではなく、教育を受ける義務があると考えられるようになり、そのような背景から、アメリカのレナード牧師が『こどもの日』の礼拝を守り、その礼拝を『フラワーデー』と名付けました。

聖書のマルコによる福音書 10 章 13 節～16 節にイエスさまが、子どもたちを祝福する話があります。16 節『子どもたちを抱き上げ、手を置いて祝福された』子どもたちを、イエスさまは一人前の人格としてあつかわれました。そして、(エフェソの信徒への手紙 4 章 8 節)『光の子として歩みなさい』の聖句があります。千鳥幼稚園では、『光の子として』子どもたちは周りの人に愛され・周りの人を愛し、『愛は希望・優しさ・強さ』を育てていると信じて共に歩んでいます。

収穫感謝礼拝(食する・生かされている)



収穫感謝礼拝は、みんなが、野菜や果物を持ち寄って礼拝を持ち、その野菜や果物を近隣のお世話になっている方に届けにいきます。翌日は、野菜を使って『豚汁クッキング』をして食べます。自分が携わった食べ物は、苦手なものも食べられるものが、増えていきます。

『ペンテコステ』で書いたように、子どもたちが、幼稚園で自ら世話をし収穫した経験や芋ほりを体験して、収穫までの大変さを知ります。年間を通して、その野菜を【切る・剥く・ちぎる】行程を経て、教会の婦人会や卒園児のお母さんに調理をお願いして、毎週水曜日に幼稚園で用意した昼食を食べます。

このような体験を通して、毎日弁当を用意してくれるお母さんへの感謝・働いてあたたかく家族を守っているお父さん・僕、私を大切にしてくれるおじいちゃん、おばあちゃん。家族からたくさんの愛情を受けて、自分のいのちが大切に育まれていることに気づいて、日々を過ごして欲しいと願っています。



千鳥幼稚園の子ども像 大地に根を張る大樹のように

木(子ども)が育つために、【大地の固さ・土の量・土の栄養分】を子どもを取り巻く大人の存在に置き換えます。

一粒の種が土に落ち、しっかりと根付き大地に根を張ります。就園前は、両親・祖父母など家族に囲まれて愛されてすくすくと育まれて愛着関係がしっかりと結ばれていきます。

幼稚園に入園すると幼稚園の先生・須磨教会の方・こひつじ文庫の方地域の方に、神さまからお預かりしたかけがえない一人ひとりの存在として愛されて見守られ成長していきます。

幼稚園の友だちが増え、仲間が拡がり、共に喜びや楽しみを分かち合える関係性が育ちます。そんな、仲の良い関係も時には意見が異なり、ぶつかり合いお互いの気持の葛藤が起こります。葛藤をどのように乗り越えていくか？先生や友だちの助言を受け、経験を繰り返し、考えて意見を話す・聴くことで、社会性が育ちます。

『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である』(ヨハネによる福音書 15 章 5 節)の聖句のように、様々な経験が成長につれて、太い幹になり、枝が伸びて枝分かれし、葉が茂ります。

それぞれの木に個性が現れて、得意分野・不得意分野が出てきます。

大地の大人が、それぞれに合うように愛情を込めて栄養や水を注ぎます。1本・1本の木が、花を咲かせ・実を結び、それぞれのあじわいが出て大樹へと成長していきます。

千鳥幼稚園では、園児一人ひとりの個性を知り、理解して支え、ご家庭と協力しながら、見守ります。

それぞれの行動のプロセス(過程)を尊重し、いのちの営みとこころの動きを大切にしていきます。

忍耐は練達を練達は希望を生む (ローマの信徒への手紙 5章4節)



上の練達という言葉は、【物事に習熟して、それによく通じていること、熟達する。熟練してその道の奥義に達している。】という意味があります。

聖書の言葉で見ると難しい言葉ですが、子どもたちの遊びの拡がりの中で、上記の聖句が当てはまることは、よく見られます。

《友だちとの葛藤・新しいことに挑戦・出来ないことを工夫して成功させる過程・友だちと1つのことに取り組む時》

自分から能動的に取り組んで楽しむ遊びの中で、忍耐力の必要な時もあります。喧嘩して気持ちの折り合いをどうつけるのか？新しい挑戦で失敗の繰り返しにめげずに何度も取り組む時。出来ないことに対してどうすると出来るのか？様々な本で調べ、周りの意見を参考にして工夫を繰り返して出来るまでの過程。友だちと相談したり、相手に合わせて聴いたり見て、ひとつのことをやり遂げた達成感。

子どもたちは、**遊びの達人**です。好きなことには、とことん繰り返して取り組んでいます。その時の表情や後ろ姿から、気持ちも伝わってきます。

そんな時は、私たち大人も「こうしたら良いよ」と口を出さずに、**見守る**存在であること。私たちにも【忍耐力】が必要です。

千鳥幼稚園では、【**忍耐力から拡がる、よく観る・考える・何度もやる・工夫する・友だちと相談する・友だちと協力する**】ひとつのことにどのように取り組んでいくのか？**出来た結果よりその過程を大切にし、その時のこころの動きに気づける存在でありたいと願い接しています。**

『**忍耐は練達を練達は希望を生む**』千鳥幼稚園の子どもたちは、**希望の光**です。



優しさ・強さ

【**忍耐は練達を練達は希望を生む**】の欄で書いた忍耐・練達そして、達成感をあじわい、互いを認め合い尊敬できる友だちと過ごすことで、友だち大好き・先生大好き・そして自分が大好き！自信をもって行動できる子ども。自己肯定感が、育まれていきます。

自己を肯定できると、他者への**労りや優しさ**が芽生え、自分を律することも出来ます。

神さまに愛されて、互いが愛し合い、互いのあるがままの姿を認め合う。『神は愛です。』（ヨハネの手紙Ⅰ 4章16節）

『**愛されている**』その事実が、**他者への愛情から出る優しさと自分をコントロールする強さと自信を生み出します。**

あなただから乗り越えられる。信じる限り。生きてる限り。

可能性は無限大

千鳥幼稚園では、子どもたちの可能性を大切に育んでいきます。

2022年1月24日

園長 大橋寿美